

2年

『あそびランドをつくろう』の実践

札幌市立南小学校 西道 直樹

◆単元のポイント

○身の回りにある素材を生かして

この単元は、ふだん気に留めない空き缶やペットボトルなどの身の回りにある材料が、遊ぶためのものを作るのに使えることに気付かせるところから始まります。そして、何気なく捨ててしまうものが、工夫によって、楽しい遊び道具になるおもしろさを味わわせることが大切です。

○子供のねがいが生きる支援

低学年の子供たちの活動では、発達段階として、見通しをもって取り組むということは困難です。そこで、毎回一人一人の活動内容と願いを教師が知るために、また、子供自身が自分の活動の見通しを立てやすくするために「ふりかえりカード」を書かせます。

このことにより、やりっぱなしの活動が、少しずつ見通しをもって活動するようになります。

○他の子とかかわりあうことで活動の質を高める

低学年の子供の活動は、個の活動で終わってしまうことがあります。個の活動では、活動に広がりや深まりがあまり見られないこともしばしばです。そこで、学級・学年・1年生とのかかわりというように、他の子とのかかわりが生まれるような活動を考えます。このことで、あそびランドの活動に広がりや深まりが見られます。



◆単元の目標

○みんなであそびランドを楽しく創ろうとする。 (関心・意欲・態度)

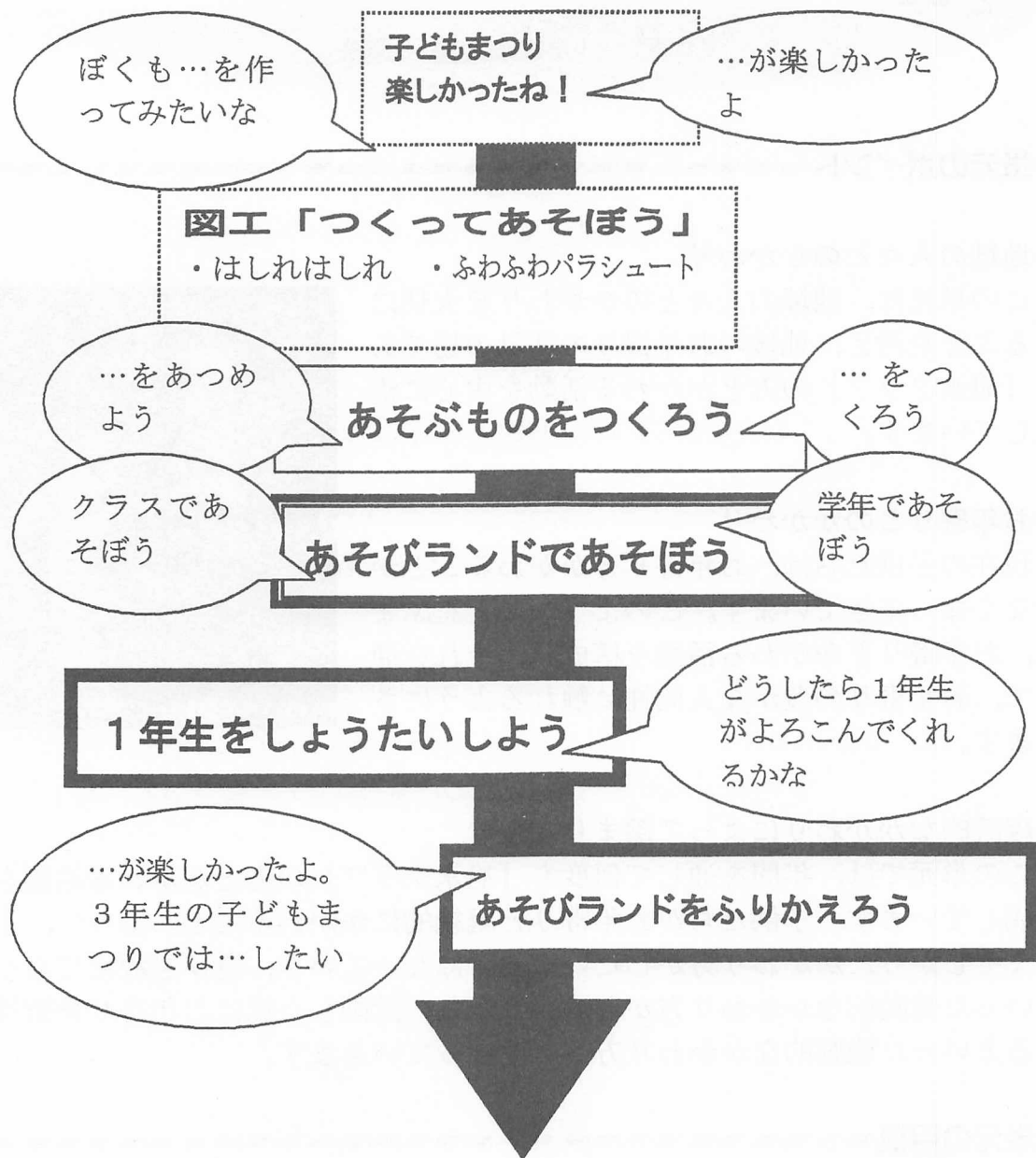
○作ったものを使って、友だちと協力して遊びを工夫することができる。

(思考・表現)

○ふだん何気なく見ているものが、遊ぶためのものを作るために使えることに気付く。 (気付き)

◆単元の構想（16時間扱い）

『あそびランドをつくろう』



◆実践するにあたって

この単元は、どの学校でも実践できる単元です。ただおもちゃを作るのではなく、製作活動・遊び活動・交流（人とのかかわり）がからんでいます。これらの要素を各学校の実態に合わせてアレンジしていくと、生き生きとしたおもしろい活動となっていきます。